

青年海外協力隊 25年の歩みと内外の動き。

	JOCVの歩み(設立以前及び設立以後)	日本の動き	世界の動き
1961年(昭36)	4月 自民党青年部「日本平和部隊構想」	池田内閣・国民所得増進計画、レンジャーブーム	ケネディ米大統領平和部隊設置行政命令に署名
1962年(昭37)	6月 海外技術協力事業団設立	貿易の自由化、東海村に国産第一号原子炉運転	タンザニア独立 キューバ危機
1963年(昭38)	8月 自民党青年部「日本平和部隊要綱」(案)	OECDに加盟	ケニア独立
1964年(昭39)		東京オリンピック、東海道新幹線開通	11月 ケネディ大統領暗殺
1965年(昭40)	4月 協力隊事務局開設 5月 外務省「日本青年海外協力隊要綱について」通知 機関誌「若い力」創刊 10月 初の派遣前訓練開始 11月 ラオスと派遣締結 12月 カンボディア、マレーシアと派遣締結 第一次隊皇太子・同妃両殿下御接見 ラオス初派遣	朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞	ザンビア独立 マラウイ独立 ベトナム戦争激化 インド・パキスタン戦争
1966(昭41)	2月 フィリピンと派遣締結 3月 ケニアと派遣締結 8月 インドと派遣締結 10月 タンザニアと派遣締結	いざなぎ景気	中国文化大革命
1967(昭42)	9月 モロッコと派遣締結 10月 佐藤首相フィリピンで隊員と懇談	美濃部亮吉東京都知事に当選	中東戦争
1968(昭43)	3月 協力隊事務局新庁舎完成 協力隊隊歌「若い力」発表 7月 エル・サルバドルと派遣締結 9月 記録映画「若い力」完成	小笠原諸島の日本復帰 10月 川端康成氏にノーベル文学賞	8月 ASEAN結成 EC発足 核拡散防止条約
1969(昭44)	4月 協力隊OB会設立 10月 シリアと派遣締結	1月 東大紛争 6月 政府、GNP世界第2位と発表	7月 アポロ11号月面着陸
1970(昭45)	7月 マレーシア隊員来日中のラーマ首相を表敬 10月 「JOCVニュース」創刊号発行 12月 ウガンダと派遣締結 日本青年海外協力隊運営諮問委員会設置	3月 大阪で万国博開催 6月 日米安保条約自動延長 11月 三島由起夫割腹自殺 よど号事件起こる	
1971(昭46)	7月 マラウイと派遣締結 9月 西サモアと派遣締結 11月 エチオピアと派遣締結	1月 国家公務員派遣法施行 6月 沖縄返還協定調印	1月 国連ボランティア(UINV)発足 3月 ハングラデシュ独立 10月 中国国連加盟
1972(昭47)	4月 トンガと派遣締結	5月 沖縄返還 日中国交正常化	米中共同声明
1973(昭48)	3月 ハングラデシュと派遣締結 4月 新訓練方式(広尾・代々木訓練所、4か月スタート) 6月 コスタ・リカと派遣締結 7月 初の全都道府県における第一次隊員選考試験実施	10月 江崎玲於奈博士にノーベル物理学賞 12月 政府、石油緊急事態宣言	1月 ベトナム和平協定 10月 第4次中東戦争
1974(昭49)	7月 テュニジアと派遣締結 8月 国際協力事業団設立「青年海外協力隊」と改められる	2月 フィリピン・ルパング島で小野田元少尉発見 10月 佐藤栄作前首相にノーベル平和賞 12月 沖縄海洋博開催	米国ウォーターゲート事件 11月 ハングラデシュ、サイクロンで17万人死亡
1975(昭50)	2月 皇太子・同妃両殿下ネパール、バングラデシュで隊員に御接見 3月 エル・サルバドル政府協力隊を評価、事務局長に勲章授与 7月 映画「アサンテサーナ」の特別試写会 9月 第一回協力隊運営委員会 11月 ホンデュラスと派遣締結		2月 ネパール、ゼレンドラ国王戴冠式 9月 バブア・ニューギニア独立 12月 ラオス人民民主共和国樹立
1976(昭51)	4月 協力隊を育てる会発足	ロッキード事件	9月 中国毛沢東主席死去

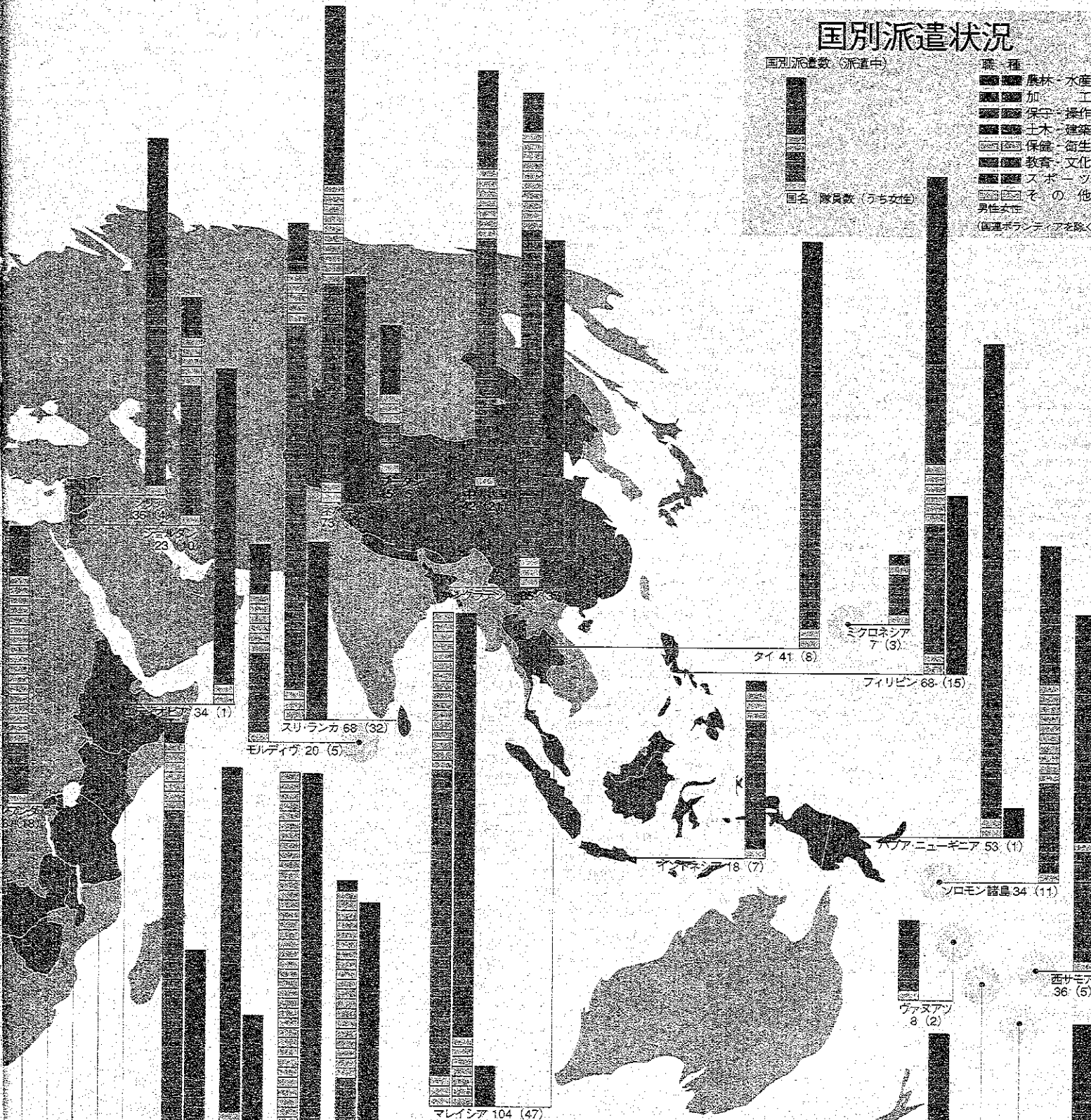
	JOCVの歩み(設立以前及び設立以後)	日本の動き	世界の動き
1977 (昭52)	12月 映画「アサンテサーナ」上映推進キャンペーン終了(24万人観賞) 2月 ガーナと派遣締結 12月 ボリヴィアと派遣締結	3月 日本の第2次大戦の賠償終了 5月 政府ODA 5年倍増計画を表明 10月 日本赤軍日航機ハイジャック、ダッカ事件	
1978 (昭53)	2月 バラグアイと派遣締結 3月 ラオス派遣中断 7月 機関誌「若い力」改題し「クロス・ロード」に ソロモンと派遣締結 8月 リベリアと派遣締結 12月 インドでの隊員協力活動終了	5月 成田空港開港 8月 日中平和友好条約締結	7月 ソロモン諸島独立 9月 ケニア・モイ大統領就任式
1979 (昭54)	4月 協力隊駒ヶ根訓練所落成 セネガルと派遣締結 8月 ベルーと派遣締結 ババア・ニューギニアと派遣締結		1月 カンボディア人民共和国誕生、米中国交樹立 6月 ガーナ・ローリングス大尉、革命評議会設立 4月 リベリア新政権樹立 10月 カンクンで南北サミット開催
1980 (昭55)	5月 スリ・ランカと派遣締結		
1981 (昭56)	1月 タイと派遣締結 3月 タンザニア・ニエレレ大統領宮中晩餐会で協力隊を評価 8月 「クロスロード」誌第3種郵便物認可 12月 モルディブと派遣締結	10月 福井謙一教授にノーベル化学賞	
1982 (昭57)	4月 ケニア・モイ大統領宮中晩餐会で協力隊を評価 8月 フィジーと派遣締結 12月 皇太子・同妃両殿下事務局をご視察	東北・上越新幹線開通	4月 フォークランド紛争
1983 (昭58)	2月 皇太子・同妃両殿下ケニア、タンザニア、ザンビア隊員と御接見 5月 ニジェールと派遣締結 7月 58年一隊中曾根総理表敬 12月 「青年海外協力協会」外務省認可	衆議院初比例代表選挙	8月 フィリピンでアキノ氏暗殺
1984 (昭59)	2月 皇太子・同妃両殿下セネガル隊員活動ご視察 4月 広尾、駒ヶ根両訓練所とも自己完結同時訓練方式に	新紙幣発行	アフリカ諸国で干ばつ深刻化 インド・カンジー首相暗殺
1985 (昭60)	1月 コロンビアと派遣締結 ジョルダンと派遣締結 3月 ドミニカ共和国と派遣締結 6月 ルワンダと派遣締結 10月 中国と派遣締結	筑波科学万博開催 日本電信公社、専売公社民営化	米ソ首脳会談 ナミビア独立戦争
1986 (昭61)	2月 緑の協力プロジェクト調査団アフリカ派遣 3月 広尾訓練所・事務局庁舎完成 7月 パナマと派遣締結	東京サミット	9月 米国防部隊25周年行事 対米貿易摩擦
1987 (昭62)	4月 地方公務員の派遣法成立 ブータン王国と派遣締結 7月 グアテマラと派遣締結 8月 インドネシアと派遣締結 9月 グアテマラと派遣締結 12月 ジャマイカと派遣締結		
1988 (昭63)	4月 OB・OGをUNVとして派遣開始 6月 セネガル大統領来日 OBらと懇談 7月 ジンバブエと派遣締結 8月 ミクロネシアと派遣締結 9月 ガーナ・ローリングス元首隊員に接見 11月 スーダンと派遣締結		9月 ソウル・オリンピック
1989 (平成)	4月 竹下総理、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア各国で隊員と懇談 7月 ラオス再派遣取極 9月 北イエメンと派遣締結 11月 海部総理、壮行会で隊員激励 12月 マーシャル諸島と派遣締結 象牙海岸と派遣締結	1月 昭和天皇崩御 消費税実施 海部内閣誕生	中国天安門事件
1990 (平成2)	1月 タンザニア・ムウニ大統領、海部総理に協力隊に感謝の意を表明 2月 25周年記念隊員新制服決定		

国別派遣状況

国別派遣数（派遣中）

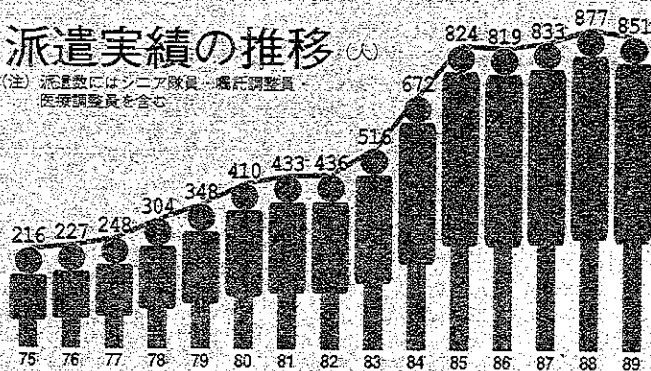
- 種別
- 農林・水産
 - 加工
 - 保守・操作
 - 土木・建築
 - 保健・衛生
 - 教育・文化
 - スポーツ
 - その他
- 男性女性
(国連ボランティアを除く)

国名 隊員数（うち女性）



派遣実績の推移

(注) 派遣数にはシニア隊員・帰任調整員
医療調整員を含む



おわりに

○青年海外協力隊は、今年で25回目の誕生日を迎えた。
1965年(昭和40年)から1966年にかけて
26名の初代隊員が水盃で送られ、
決死の覚悟でアジアの4カ国に旅立ってから
四半世紀がたった。

すでに9700名を越える青年男女が派遣され、
1990年(平成2年)の今年7月には累積で10000名を越える。

○協力隊事業の目的は、
言うまでもなく日本の青年のもつ技術・技能を通じて、
これから発展しようとする国の人造り、
国造りに貢献する、いわゆる技術協力である。

○しかし、それだけでなく、
派遣された国々での草の根レベルでの
人間的交流があり、

その経験が帰国した隊員の人生を
大きく変えうる要素があったからこそ、
25年間事業が発展してきたのであろう。

○この写真集は、なぜ協力隊が求められるのか、
そして、隊員が各々の任地で、
どんなドラマに遭遇するのか、25周年を記念して、
厳しい環境と異なる文化の中での
日本の若者の生きた姿に、
少しでも肉薄して紹介できるように
フォト・ジャーナリスト野町和嘉氏の全面協力を得て
完成したものである。

6カ国49日間、隊員と寝食を共にしながら
撮影取材にあたられた同氏に、
協力隊として深く感謝したい。

国際協力事業団青年海外協力隊事務局

WE LOVE THE EARTH

たいせつな人間と地球のために

発行○国際協力事業団

青年海外協力隊事務局

写真・文○野町和嘉

編集○杉本進・MALAIKA

デザイン○中城デザイン事務所

印刷○凸版印刷株式会社

初版○平成2年7月

非売品

*Japan
Overseas Cooperation
Volunteers*

